

総合型地域スポーツクラブの法人格の有無による ソーシャル・キャピタルの影響に関する研究

稲葉慎太郎*
山口泰雄** 伊藤克広***

抄録

本研究の目的は、総合型地域スポーツクラブの法人格の有無、特に NPO 法人格を取得しているクラブと任意団体のクラブとの比較により、クラブ運営におけるソーシャル・キャピタルの影響の特徴を明らかにすることである。具体的には、関西地区（2府5県）の総合型地域スポーツクラブ 18 クラブ（NPO 法人格クラブ 10 クラブ、任意団体クラブ 8 クラブ）の運営スタッフ（クラブマネジャー、事務局長等）を対象としたインタビュー調査を行った。そして、得られたテキストデータを用いてテキストマイニングを行い、テキストの構成要素を抽出して出現頻度を NPO 法人格クラブと任意団体クラブとでそれぞれ主成分分析を行った。その結果、本研究において分析対象となったテキストの構成要素は 122 種類であり、クラブと地域のスポーツ団体や地域団体との関係性、クラブの活動や教室事業における回答に関する構成要素が出現頻度の上位を占めた。さらに、主成分分析の結果からは、NPO 法人格クラブと任意団体クラブともに 7 因子が抽出された。NPO 法人格クラブにおいて抽出された主成分からは、「地域スポーツの調整組織」という特徴が示された。指定管理者としての公共スポーツ施設の管理、行政からの事業委託を通じて、クラブマネジャーは、地域の各種スポーツ団体の関係者や行政のスポーツ振興担当者などの幅の広いスポーツ関係者とのソーシャル・キャピタルが形成されていると考えられる。一方、任意団体クラブにおいては、「行政施策としての地域スポーツ」という特徴が明らかとなった。クラブの設立経緯から行政主導の色合いが残っており、行政の地域スポーツ振興の施策の一環としてクラブ育成が進められていると考えられる。さらに、任意団体クラブゆえにクラブの財政的な基盤が弱いことから、「ボランティアスタッフによる教室運営」というクラブ事業の形態を取っていることも特徴である。

キーワード：ソーシャル・キャピタル、総合型地域スポーツクラブ、
NPO 法人格クラブ、任意団体クラブ、テキストマイニング

* 神戸大学大学院人間発達環境学研究科博士後期課程 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-11

** 神戸大学大学院 〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲 3-11

*** 兵庫県立大学 〒651-2197 兵庫県神戸市西区学園西町 8-2-1

A Study of the Influence of Social Capital on Non-profit Organization Community Sport Clubs and Voluntary Community Sport Clubs

Shintaro Inaba *
Yasuo Yamaguchi** Katsuhiko Ito***

Abstract

The purpose of this study was to examine the characteristics of the influence of social capital through comparing between NPO (non-profit organization) community sport clubs with voluntary community sport clubs. In this study, interview was conducted at club managers of 18 community sport clubs in Kansai area (7 prefectures). Eighteen clubs consisted of 10 NPO clubs and 8 voluntary clubs. Text data from interview were analyzed by using text mining method. Principal component analysis was applied to the text elements in text data. One hundred twenty two text elements were obtained from the text data. These elements mainly showed the relationships between community clubs and local sport groups or local community groups, and the activities of clubs. The results of principal component analysis showed 7 factors for both NPO clubs and voluntary clubs. The factors of NPO clubs indicated the characteristic that clubs functioned as organizations to coordinate local sport activities. Social capital was formed between the managers of NPO clubs and various sport officials, for example, sports association officials and administrative officers through the designated administrator system and commissioned projects. On the other hand, the factors of voluntary clubs indicated the characteristics of local sport promotion as a policy. The activities of voluntary clubs were one of local sport promotion and were led by administration. Another characteristic was the figure of the administration of club activities by helping volunteers because the financial base of voluntary clubs was usually weak.

Key Words : Social Capital, Community Sport Clubs, Non-profit Organization Clubs
Voluntary Clubs, Text Mining

* Graduate School, Kobe University 3-11 Tsurukabuto, Nada-ku, Kobe 657-8501 JAPAN

** Kobe University 3-11 Tsurukabuto, Nada-ku, Kobe 657-8501 JAPAN

*** University of Hyogo 8-2-1 Gakuennisimachi, Nishi-ku, Kobe 651-2197 JAPAN

1. はじめに

文部科学省（2012）によると、2012年7月現在で全国1,362の市区町村において3,396の総合型地域スポーツクラブが育成されている。また、2011年6月にはスポーツ基本法が制定され、スポーツ基本法の第3章第2節第21条においては、国及び地方公共団体は、国民がその興味又は関心に応じて身近にスポーツに親しむことができるよう、住民が主体的に運営するスポーツ団体が行う地域スポーツの振興のための事業の支援、住民が安全かつ効果的にスポーツを行うための指導者等の配置、住民が快適にスポーツを行い相互に交流を深めることができるスポーツ施設の整備その他の必要な施策を講ずるよう努めなければならない（文部科学省、2011）、と定められている。スポーツ基本法の制定を受け、2012年3月にはスポーツ基本計画が策定され、住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境を整備することは、地域社会の再生において重要な意義を有するものであるとともに、生涯を通じた住民のスポーツ参画の基盤となるものである（文部科学省、2012）、と述べられている。すなわち、総合型地域スポーツクラブは、地域スポーツ振興の活動拠点であると同時に、コミュニティの核としても位置づけられているといえる。

1995年に文部省（当時）の総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業が開始されてから20年近くが経過するが、各クラブの育成状況については、山口（2006）が指摘するように、行政等からの補助金終了と同時に消滅・休眠状態に陥るクラブも存在するなど、格差が広がっている状況である。クラブの活動を促進する要因としては、山口（2006）が「人的資源（ヒト）」、「物的資源（モノ）」、「財務（カネ）」、「情報」を示している。文部省（2012）によると、「ヒト」、「カネ」、「情報」の3つの側面からのクラブ育成の格差について指摘している。「ヒト」の側面からは、全国の市（東京23区含む）のみを対象とした場合のクラブ設置率（90.9%）と、町村までを加えた場合のクラブ設置率（75.4%）の差が生じる要因として高齢化や過疎化を挙げており、これがクラブ育成の鈍化につながっているとしている。「カネ」の側面からは、自己財源率が50%以下のクラブが半数以上（57.65%）を占めている一方、様々な財源確保が期待できる法人格を取得しているクラブは11.4%、地方公共団体から指定管理者として委託を受けたクラブは3.7%にとどまっていることを指摘している。「情報」の側面からは、笹川スポーツ財団（2008）の結果より、総合型地域スポーツクラブを知らない者が約7割に上っていることから、クラブの理念・特徴・地域住民の関与の仕方等に関

わる情報が広く行きわたっていないことを挙げている。これらの課題に対して、クラブのNPO法人格取得の促進を始めとした地方公共団体による活動支援や、クラブとコミュニティ、各種学校との連携、クラブ間のネットワーク拡充といった施策の展開を掲げている。さらに、Salamon（1997）によると、NPO法人という組織は組織に関わる人々の個人間つながりを生み出し、ソーシャル・キャピタル（社会関係資本）を拡大し、その活動をより豊かにする可能性があることを主張している。

内閣府（2003）は、市民活動の活性化に効果をもたらすものとして、ソーシャル・キャピタルという概念を示している。近年においては、Putnam（1993）の研究が代表例とされ、ソーシャル・キャピタルを定量的に計測した点が画期的であるとされている。その後、各国政府の統計局や、国際機関も調査を行うなど、主にコミュニティ形成を促進する要因として注目されている。World Bankにおいては、Grootaert et al.（2004）がソーシャル・キャピタル評価ツール（Social Capital Assessment Tool：SOCAT）を開発しており、ソーシャル・キャピタルを量的に測定し、発展途上国の持続可能な開発に向けて実践的に活用している。さらに、Dudwick et al.（2006）は、ソーシャル・キャピタルの質的に調査する指針として、“Analyzing Social Capital in Context：A Guide to Using Qualitative Methods and Data”を示している。国内においてソーシャル・キャピタルの質的研究は、宮崎（2008）が地域福祉事業体を対象とした研究、塚ら（2009）が地域の祭礼行事を対象としたケーススタディを行うなど、知見が限られている。神原（2011）は、Dudwick et al.（2006）で示された枠組みをベースに、ソーシャル・キャピタルの質的研究の指針としてまとめている（表1）。神原（2011）は、この枠組みは発展途上国におけるソーシャル・キャピタル調査を念頭において設計されていることから、先進国での調査や対象とする課題によってアレンジすべき項目を設けることが必要であると述べている。

表1. 質的研究におけるソーシャル・キャピタルの分析枠組み

Dimension 1	グループとネットワーク (groups and networks)
Dimension 2	信頼と結束 (trust and solidarity)
Dimension 3	集合的行動と協同 (collective action and cooperation)
Dimension 4	情報とコミュニケーション (information and communication)
Dimension 5	社会的結合と包摂 (social cohesion and inclusion)
Dimension 6	権限委譲と政治的行動 (empowerment and political action)

総合型地域スポーツクラブがコミュニティ形成の核として期待されているように、スポーツ社会学においてもソーシャル・キャピタルの概念に注目されているが、その知見は限られている。長積ら(2009)は、Putnam (1993) による定義をもとにした「信頼、規範、ネットワーク」といった項目からソーシャル・キャピタルを定量的に測定し、地域スポーツイベントへの参加や、地域への帰属意識への影響を明らかにしている。また、Harvey et al. (2007) は、住民のコミュニティへの参加や、社会的地位といった項目からなるソーシャル・キャピタルが、スポーツ・ボランティアの参加への影響を検証している。さらに、Okayasu et al. (2010) は、地域スポーツクラブの形態の違いにより、Putnam (1993) の定義をもとにし、ソーシャル・キャピタルの定量的な側面からの違いを検証している。しかし、ソーシャル・キャピタルの測定項目については、坂本(2007)が指摘するように測定指標を検証する研究の蓄積が進んでおらず、研究分野や研究対象によってソーシャル・キャピタルを定量的に測定する際の妥当性に課題が残る。そこで本研究においては、インタビュー調査(質的アプローチ)によって得られたテキストデータをもとに、構成される言葉の出現頻度(量的データ)を分析するテキストマイニングを用いて、総合型地域スポーツクラブの運営の担うクラブマネージャーや事務局長を中心に形成されるソーシャル・キャピタルの特徴の検証を行った。

2. 目的

本研究の目的は、総合型地域スポーツクラブの法人格の有無、特にNPO法人格を取得しているクラブと任意団体のクラブとの比較により、クラブ運営におけるソーシャル・キャピタルの影響の特徴を明らかにすることである。具体的には、総合型地域スポーツクラブの運営スタッフ(クラブマネージャー、事務局長等)を対象にインタビュー調査を行い、そのテキストデータを定量化してNPO法人クラブと任意団体クラブにおいて比較を行うことで、クラブ運営におけるソーシャル・キャピタルの影響の特徴を明らかにする。

3. 方法

本研究における調査対象としたクラブは、以下の表2に示す18クラブである。関西地区2府5県(大阪府、京都府、兵庫県、和歌山県、奈良県、滋賀県、三重県)に所在する総合型地域スポーツクラブを対

象とした。対象クラブを抽出する際には、2府5県にまたがり、都市部や山間部など多様な地域に及ぶように留意した。そして、スポーツ振興基本計画(文部科学省, 2000)において述べられている総合型地域スポーツクラブの特徴のうち、多種目、多世代、自主運営という条件を満たすクラブを抽出し、電子メール、もしくは電話にて調査協力を依頼し、承諾を得られたNPO法人クラブ10クラブ、任意団体クラブ8クラブを調査対象クラブとした。

表2.調査対象クラブ

種別	府県名	クラブ名(所在地)
NPO法人クラブ	大阪府	さくらスポーツクラブ(高槻市)
		長野総合スポーツクラブ(河内長野市)
	兵庫県	スポーツクラブ21はりま(播磨町)
		加古川総合スポーツクラブ(加古川市)
	京都府	東宇治スポーツクラブ(宇治市)
	奈良県	吉野スポーツクラブ(吉野町)
		川西スポーツクラブ(川西町)
	和歌山県	会津スポーツクラブ(田辺市)
	滋賀県	YASUほほえみクラブ(野洲市)
		MOSスポーツクラブ(米原市)
任意団体クラブ	大阪府	ひらかたキングフィッシャーズスポーツクラブ(枚方市)
	兵庫県	スポーツクラブ21藤江(明石市)
		スポーツクラブ21潮見(芦屋市)
		スポーツクラブ21朝日ヶ丘(芦屋市)
	京都府	京たなべ・同志社スポーツクラブ(京田辺市)
	和歌山県	エンジョイスポートわかやま(和歌山市)
	滋賀県	いぶきスポーツクラブ(米原市)
	三重県	元気アップこものスポーツクラブ(菰野町)

調査方法は、直接面接法によるインタビュー調査を採用し、各クラブの拠点施設(クラブハウス)、または近隣の公共施設(生涯学習センター等)にて実施した。調査期間は2012年11月~2013年2月であり、1回当たりの調査時間は、60分~120分であり、文字データへの記録が済み次第消去することを条件で許可を得てICレコーダーにて録音を行った。

調査内容は、Dudwick et al. (2006) による研究枠組みをもとに、神原(2011)の枠組みを参考に、研究代表者1名、共同研究者2名で国内の地域スポーツ振興を対象とした調査項目を作成した。さらに、2012年11月に兵庫県内のNPO法人格を取得しているスポーツクラブのクラブマネージャーを対象に予備調査を行い、質問項目の内容の理解が難しい、回答がしづらい項目について意見を得た。その内容をもとに、再度、研究代表者、共同研究者、及び研究代表者が所属する大学院の大学院生2名の検討を経て、調査項目を作成した(表3)。

表 3. 地域スポーツを対象とした
ソーシャル・キャピタルのインタビュー項目

第1次元 地域のグループとネットワーク (1) スポーツ資源とサービスの利便性 クラブがある地域におけるスポーツ施設や公共スポーツ事業とその課題 (2) スポーツグループとネットワーク クラブがある地域におけるスポーツ団体とそれらの連携体制 (3) 地域グループとネットワーク クラブがある地域における地域団体とそれらの連携体制
第2次元 地域の信頼と結束 (1) コミュニティの背景 スポーツ団体・地域団体のネットワークにおける付き合い クラブがある地域における重要なスポーツ団体・地域団体 (2) 地域の規範・信頼 クラブが協力を呼びかける範囲、頼りにする組織・団体
第3次元 集合的行為と協働関係 (1) コミュニティにおけるクラブの課題 クラブの課題と、それらに対する対策
第4次元 地域の情報源 (1) 地域スポーツに関する情報源 クラブがある地域の情報源と口コミの効果 (2) 情報とコミュニケーション・チャネル 他に利用可能な情報伝達手段
第5次元 地域のまとまり (1) 地域のまとまりと排除 地域住民がまとまる機会、スポーツ団体間・地域団体間の意見の不一致 (2) 対立のパターン スポーツ団体間・地域団体間でのもめごと
第6次元 住民の地域性 (1) 気質と行政への要望 地元の伝統的な気質、地域スポーツに関する行政への要望 (2) 組織把握 スポーツ団体の把握、地域へのスポーツ団体の影響

分析方法は、インタビュー調査の結果得られたテキストデータをもとに、テキストマイニングを行った。テキストマイニングは、藤井 (2005) によれば、①テキストデータの収集、②集められたテキストデータの分析、③分析結果の解釈の3段階を経る。これらのうち、②のプロセスにおいて「茶釜」を用いて形態素解析を行い、テキストデータの構成要素を抽出した。形態素とは、意味をもつ最小の言語単位（広辞苑）であり、形態素解析とはテキストデータを形態素ごとに分解することである。その際、林 (2002) の示す基準に従い「形容詞」と「名詞」のうち、「名詞—サ変接続」、「名詞—一般」、「名詞—形容動詞語幹」、「名詞—固有名詞—組織」の以上7つの品詞に属する形態素を構成要素として抽出した。抽出された構成要素は、全体で 2,561 種類、NPO 法人格クラブ (n=10) においては 1,751 種類、任意団体クラブ (n=8) においては 1,700 種類であった。

次に、それぞれの構成要素に関して、テキストデータの中での出現頻度を整理した。そしてこの段階までに抽出した構成要素のうち、本研究においては、NPO 法人格クラブの調査結果と任意団体クラブの調査結果の両方において、出現頻度が 10 回以上となる構成要素のみを採用した。川嶋ら (2009) や京

(2012) によると、この出現頻度の条件に関してはテキストマイニングを用いた研究において統一した見解は存在していない。しかし、これらの研究においても参考にされている清水ら (2005) の基準をもとに、閾値を 10 に設定することとした。

上記の方法によって得られた構成要素について、NPO 法人格クラブと任意団体クラブのそれぞれにおいて主成分分析を行った。主成分分析を行う際には、負荷量が .400 以上となる構成要素を採用した。得られた主成分ごとに構成要素の内容を検討して、川嶋ら (2009)、京 (2012) を参考に成分名を決定し、NPO 法人格クラブと任意団体クラブの成分名を比較することで、2 種類のクラブにおいて影響しているソーシャル・キャピタルの内容について特徴を明らかにする。

4. 結果及び考察

表 4 は、インタビュー調査の結果得られたテキストデータのうち、分析対象とする構成要素とテキストデータにおける出現頻度を示している。分析対象となる構成要素は 122 種類であった。NPO 法人格クラブと任意団体クラブを合わせた全体 (n=18) において、出現頻度が高かった構成要素を上位 10 位で見ると、「クラブ (526 回)」、「スポーツ (517 回)」、「ない (338 回)」、「地域 (266 回)」、「人 (230 回)」、「団体 (186 回)」、「活動 (176 回)」、「うち (171 回)」、「あと (162 回)」、「教室 (156 回)」であった。インタビュー項目の設定から、クラブと地域のスポーツ団体や地域団体との関係性、クラブの活動や教室事業においても回答が及ぶことが多くなるため、上記のような結果が得られたといえる。

NPO 法人格クラブ (n=10) において、出現頻度が高かった構成要素を上位 10 位で見ると、「スポーツ (297 回)」、「クラブ (285 回)」、「ない (188 回)」、「地域 (163 回)」、「団体 (112 回)」、「人 (106 回)」、「活動 (99 回)」、「教室 (93 回)」、「小学校 (93 回)」、「大会 (89 回)」であった。任意団体クラブ (n=8) において、出現頻度が高かった構成要素を上位 10 位で見ると、「クラブ (241 回)」、「スポーツ (220 回)」、「ない (150 回)」、「人 (124 回)」、「地域 (103 回)」、「うち (93 回)」、「体育 (88 回)」、「施設 (86 回)」、「あと (84 回)」、「活動 (77 回)」であった。2 種類のクラブにおいて構成要素の特徴を見ると、NPO 法人格クラブでは、「団体」、「教室」、「小学校」、「大会」といった内容が挙げられる。これらから、地域のスポーツ団体・地域団体との連携、クラブとしての教室事業、小学校を拠点とした活動、各種大会の開催を精力的に行っていることが推察される。

任意団体クラブでは、「うち」、「体育」、「施設」といった内容が挙げられる。これらから、自分が所属するクラブを「うち」と呼ぶ身内の感覚、かつての社会体育としてクラブの活動を認識、施設利用に関する要望・希望といった内容が推察される。

表4. 構成要素の出現頻度

構成要素	出現頻度			構成要素	出現頻度		
	NPO (n=10)	任意団体 (n=8)	全体 (n=18)		NPO (n=10)	任意団体 (n=8)	全体 (n=18)
クラブ	285	241	526	新しい	22	29	51
スポーツ	297	220	517	課題	25	25	50
ない	188	150	338	センター	30	19	49
地域	163	103	266	中心	24	25	49
人	106	124	230	高齢	19	29	48
団体	112	74	186	健康	28	19	47
活動	99	77	176	場所	22	25	47
うち	78	93	171	情報	24	23	47
あと	78	84	162	野球	20	27	47
教室	93	63	156	文化	16	30	46
施設	69	86	155	基本	25	20	45
体育	60	88	148	競技	19	26	45
小学校	93	54	147	お金	23	21	44
大会	89	57	146	難しい	26	18	44
多い	61	63	124	他	20	21	41
体育館	56	65	121	少ない	11	29	40
委員	79	38	117	テニス	17	22	39
協会	43	72	115	市民	10	29	39
形	75	36	111	地区	14	25	39
学校	70	40	110	サークル	20	18	38
会員	75	34	109	会長	16	22	38
イベント	55	51	106	県	20	18	38
参加	64	39	103	個人	20	18	38
子ども	79	23	102	調整	22	16	38
行政	63	35	98	スタッフ	21	15	36
関係	47	49	96	種目	19	17	36
市	38	51	89	意味	13	21	34
指導	55	33	88	仕事	18	16	34
いい	37	50	87	交流	23	10	33
自治	50	37	87	非常	23	10	33
事業	52	34	86	祭り	15	17	32
町	48	38	86	自体	14	17	31
部分	55	31	86	理事	10	21	31
話	55	29	84	つながり	11	19	30
総合	42	40	82	加盟	13	17	30
自分	41	37	78	社会	12	18	30
年	33	43	76	利用	20	10	30
教育	40	35	75	この辺	18	11	29
組織	39	36	75	強い	13	16	29
いろいろ	33	41	74	場	11	18	29
とこ	39	32	71	老人	16	13	29
管理	51	19	70	ホームページ	17	11	28
連絡	37	32	69	状況	17	11	28
一つ	30	36	66	推進	15	13	28
感じ	31	35	66	必要	15	13	28
サッカー	31	32	63	お願	12	15	27
すごい	26	37	63	単位	13	14	27
協議	39	24	63	配布	12	15	27
運営	36	26	62	バドミントン	12	14	26
協力	41	21	62	高い	14	12	26
中学校	45	17	62	福祉	15	11	26
大きい	36	24	60	ボランティア	10	15	25
一緒	26	32	58	ロコミ	11	14	25
先生	30	27	57	主催	14	10	24
広報	33	23	56	状態	14	10	24
グラウンド	31	24	55	開放	10	13	23
少年	27	28	55	声	11	12	23
子	24	30	54	体協	11	12	23
月	23	29	52	辺	12	11	23
チーム	27	24	51	意識	11	11	22
振興	27	24	51	人口	10	10	20

表5は、NPO 法人格クラブを対象としたインタビュー調査によって得られたテキストデータの構成要素に関して、主成分分析を行った結果である。第1主成分の主な構成要素としては、団体間の調整役を想起する「調整」、「連絡」、「組織」、クラブに関わる団体を想起させる「団体」、「野球」、「バドミントン」といった内容が見られ、団体間の連絡調整を行っているクラブの姿が推察される。したがって、

第1主成分を「地域スポーツの調整組織」と名付けた。第1主成分の寄与率は23.232%であった。第2主成分の主な構成要素としては、地域スポーツ団体を連想させる「地域」、「スポーツ」、「子ども」、「競技」、団体間の関係性を示す「協議」、「交流」といった内容が見られたことから、子ども向けの活動や競技団体などが協議したり交流したりする様子が見えてくる。これらより、第2主成分を「地域スポーツ団体との協議・交流」と名付けた。第2主成分の寄与率は、20.081%であった。第3主成分の主な構成要素としては、施設である「小学校」、「体育館」、活動単位の「サッカー」、「チーム」、「教室」、種目の集まりである「加盟」、「総合」といった内容が見られた。したがって、第3主成分を「公共スポーツ施設を拠点とした多目的活動」と名付けた。第3主成分の寄与率は、19.139%であった。第4主成分の主な構成要素は、地域を想起させる「町」、「社会」、住民間の「関係」、そこから生じる「ロコミ」といった内容が見られた。したがって、第4主成分を「スポーツに対する住民意識」と名付けた。第4主成分の寄与率は、13.446%であった。第5主成分の主な構成要素は、会費や自己負担と結びつく「お金」、活動のための「場所」、それらに対する要望としての「声」といった内容が見られた。したがって、第5主成分を「活動場所や会費に対する要望」と名付けた。第5主成分の寄与率は、10.201%であった。第6主成分の主な構成要素は、「クラブ」、運営に携わる「委員」、「高齢化」といった内容が見られた。したがって、第6主成分を「クラブの運営委員の高齢化」と名付けた。第6主成分の寄与率は、7.647%であった。第7主成分の構成要素は、クラブ内の「サークル」、クラブ外の「福祉」団体といった内容が見られた。したがって、第7主成分を「各サークルや福祉団体とのつながり」と名付けた。第7主成分の寄与率は、6.104%であった(表6)。

表7は、任意団体クラブを対象としたインタビュー調査によって得られたテキストデータの構成要素に関して、主成分分析を行った結果である。第1主成分の主な構成要素は、行政を想起させる「県」、「行政」、行政の施策につながる「振興」、「事業」、「管理」といった内容が見られ、クラブの活動における行政主導の側面を示唆しているといえる。したがって、第1主成分を「行政施策としての地域スポーツ」と名付けた。第1主成分の寄与率は、25.048%であった。第2主成分の主な構成要素は、クラブの「スタッフ」、「ボランティア」、「会員」、クラブの事業としての「教室」といった内容が見られ、ボランティアを中心にした運営でのクラブの教室事業の姿が推察された。したがって、第2主成分を「ボ

ランティアスタッフによる教室運営」と名付けた。第2主成分の寄与率は、17.188%であった。第3主成分の主な構成要素は、クラブが「主催」する「イベント」、イベントの内容として考えられる「健康」、「いろいろ」、運営の際の「協力」体制といった内容が見られる。したがって、第3主成分を「クラブ主催イベントへの協力」と名付けた。第3主成分の寄与率は、15.682%であった。第4主成分の主な構成要素は、クラブの拠点施設としての「学校」、学校の「関係」者や先生、クラブの「会長」、人とのつながりを想起させる「中心」、「強い」といった内容が見られた。したがって、第4主成分を「学校関係者とクラブ会長のつながり」と名付けた。第4主成分の寄与率は、14.326%であった。第5主成分の主な構成要素は、活動をするための「場所」、クラブの「広報」や「情報」、その対象となる「市民」といった内容が見られた。したがって、第5主成分を「場所の確保と市民に向けた広報」と名付けた。第5主成分の寄与率は、11.336%であった。第6主成分の主な構成要素は、クラブにおける「サークル」、現場の「指導」者の「必要」性、指導者資格と関連する「協会」といった内容が見られた。したがって、第6主成分を「サークルにおける指導者の必要性」と名付けた。第6主成分の寄与率は、9.689%であった。第7主成分の主な構成要素は、クラブの活動拠点となる「小学校」、学校開放事業を想起させる「開放」、「地域」、利用者としての「高齢」者、「子ども」といった内容が見られた。したがって、第7主成分を「学校開放事業」と名付けた。第7主成分の寄与率は、6.731%であった。(表8)。

表5. 構成要素の主成分分析の結果
(NPO 法人格クラブ)

第1主成分	第2主成分	第3主成分	第5主成分
調整 .977	地域 .900	小学校 .927	子 .850
基本 .963	スポーツ .896	サッカー .910	お金 .835
部分 .960	非常 .862	加盟 .899	自体 .785
形 .948	子ども .837	総合 .890	声 .774
ボランティア .923	競技 .833	高い .854	場所 .664
地区 .912	協議 .831	感じ .841	協会 .551
とこ .903	交流 .829	体育館 .816	寄与率 10.201
自分 .899	いろいろ .808	状態 .802	第6主成分
組織 .898	つながり .790	他 .744	他 .744
強い .889	一つ .760	振興 .792	委員 .733
辺 .871	理事 .760	チーム .780	クラブ .688
ホームページ .860	多い .747	教室 .749	高齢 .647
健康 .854	必要 .736	運営 .747	種目 .604
ない .807	県 .735	開放 .744	場 .588
お願い .803	人 .712	市民 .736	大会 .575
仕事 .803	情報 .708	広報 .653	主催 .520
自治 .798	中学校 .698	管理 .618	月 .446
大きい .773	活動 .686	単位 .616	寄与率 7.647
連絡 .767	少ない .682	ユニス .602	第7主成分
課題 .707	難しい .672	個人 .595	サークル .646
団体 .699	状況 .658	文化 .528	福祉 .614
グラウンド .699	一緒 .636	参加 .526	うち .591
り .670	この辺 .630	寄与率 19.139	寄与率 6.104
利用 .647	すごい .621	第4主成分	意識 .833
推進 .644	協力 .620	意識 .833	町 .811
野球 .637	会長 .619	関係 .708	口コミ .696
イベント .592	学校 .613	社会 .688	施設 .647
意味 .570	行政 .594	施設 .647	いい .640
バドミントン .560	会員 .561	いい .640	体育 .608
祭り .458	教育 .550	体育 .608	体協 .600
寄与率 23.282	年 .520	話 .554	少年 .539
	新しい .474	少年 .539	指導 .528
	人口 .435	指導 .528	あと .467
	寄与率 20.081	あと .467	老人 .420
		老人 .420	寄与率 13.446

表6. 主成分名 (NPO 法人格クラブ)

第1主成分	地域スポーツの調整組織
第2主成分	地域スポーツ団体との協議・交流
第3主成分	公共スポーツ施設を拠点とした多項目活動
第4主成分	スポーツに対する住民意識
第5主成分	活動場所や会費に対する要望
第6主成分	クラブの運営委員の高齢化
第7主成分	各サークルや福祉団体とのつながり

表7. 構成要素の主成分分析の結果
(任意団体クラブ)

第1主成分	第2主成分	第4主成分	第6主成分
振興 .970	スタッフ .955	学校 .950	社会 .753
中学校 .967	自分 .936	会長 .902	一緒 .730
事業 .944	形 .913	サッカー .894	いい .706
施設 .908	部分 .889	関係 .868	サークル .649
自体 .905	教室 .876	中心 .815	協会 .641
少年 .896	会員 .854	強い .774	指導 .621
地区 .889	意識 .826	野球 .748	必要 .465
あと .867	感じ .820	先生 .693	市 .446
一つ .858	ボランティア .783	子 .693	連絡 .413
県 .854	とこ .767	他 .690	寄与率 9.689
つながり .851	バドミントン .723	祭り .684	第7主成分
場 .836	ロコミ .676	寄与率 14.326	小学校 .810
競技 .828	体育館 .621	第5主成分	高齢 .717
年 .821	月 .597	場所 .886	状況 .659
スポーツ .818	寄与率 17.188	広報 .863	開放 .638
行政 .811	第3主成分	意味 .831	地域 .562
管理 .774	主催 .816	辺 .737	子ども .443
クラブ .760	健康 .768	市民 .731	寄与率 6.731
この辺 .757	協力 .766	総合 .691	
委員 .751	イベント .752	ホームページ .668	
ない .743	いろいろ .747	非常 .626	
人 .740	テニス .718	活動 .570	
体協 .737	教育 .716	情報 .456	
利用 .736	参加 .710	グラウンド .416	
話 .727	町 .708	寄与率 11.336	
組織 .714	配布 .659		
体育 .703	すごい .631		
うち .699	課題 .597		
団体 .692	仕事 .586		
少ない .675	福祉 .578		
理事 .654	調整 .573		
基本 .653	種目 .572		
人口 .645	声 .565		
個人 .636	新しい .545		
チーム .626	大きい .539		
高い .605	加盟 .526		
お金 .596	老人 .455		
センター .535	寄与率 15.682		
お願い .531			
難しい .522			
単位 .517			
寄与率 25.048			

表8. 主成分名 (任意団体クラブ)

第1主成分	行政施策としての地域スポーツ
第2主成分	ボランティアスタッフによる教室運営
第3主成分	クラブ主催イベントへの協力
第4主成分	学校関係者とクラブ会長の結びつき
第5主成分	場所の確保と市民に向けた広報
第6主成分	サークルにおける指導者の必要性
第7主成分	小学校の学校開放事業

5. まとめ

本研究の目的は、総合型地域スポーツクラブの法人格の有無によって、特にNPO法人格を取得しているクラブと任意団体のクラブとの比較により、クラブ運営におけるソーシャル・キャピタルの特徴を明らかにすることであった。具体的には、Dudwick et al. (2006) を参考にした、ソーシャル・キャピタルの質的研究の枠組みからインタビュー項目を

作成し、得られたテキストデータをもとにテキストマイニングの手法を用いて、NPO 法人格クラブと任意団体クラブにおいて、特徴を明らかにすることであった。分析の結果、表6と8に示す主成分名が示す特徴が明らかとなった。

NPO 法人格クラブにおいて、特に特徴的な内容は、「地域スポーツの調整組織」である。NPO 法人格を取得していることから、クラブマネージャーは、指定管理者としての公共スポーツ施設の管理や行政からの事業委託を通じて、地域の各種スポーツ団体の関係者、行政のスポーツ振興担当者などとのネットワークが形成されていると考えられ、幅の広いスポーツ関係者とのソーシャル・キャピタルが形成されているといえる。さらに、「地域スポーツ団体との協議・交流」からも、各種の地域スポーツ団体と定期的にコミュニケーションを図り、時には協力や交流をしているクラブの姿勢がうかがえる。

任意団体クラブにおいて、特に特徴的な内容は、「行政施策としての地域スポーツ」である。クラブの設立経緯から現状の活動に至るまで、行政主導の色合いが残っており、行政の地域スポーツ振興の施策の一環としてクラブ育成が進められていると考えられる。さらに、任意団体クラブゆえにクラブの財政的な基盤が弱いことから、「ボランティアスタッフによる教室運営」というクラブ事業の形態を取らざるを得ないといえる。

今後、地域スポーツを対象としたソーシャル・キャピタルの更なる把握を進めるために、本研究において行われた質的アプローチでのテキストデータから、ソーシャル・キャピタルを定量的に測定する尺度の開発が課題となってくる。さらに、開発された尺度を用いて、より広域におよぶクラブを対象とした調査を行い、得られたデータと質的アプローチによって得られたデータから、信頼性・妥当性の検証が求められる。

参考文献

- Cha-Sen 形態素解析器 (奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 自然言語処理学講座)
<http://chasen-legacy.sourceforge.jp/>
- Dudwick, N., Kuehnast, K., Jones, V. N., and Woolcock, M. (2006) *Analyzing Social Capital in Context – A Guide to Using Qualitative Methods and Data*, *World Bank Institute*.
- 清水裕士・小杉孝司 (2005) テキストマイニングを用いた心理学分析の応用例－異性関係への印象の分析, 藤井美和, 小杉孝司, 李政元 (2005) 福

- 社・心理・看護のテキストマイニング入門, 中央法規, 115-132.
- Grootaert, C., Narayan, D., Jones, V. N. and Woolcock, M. (2004) *Measuring Social Capital*. The World Bank Working Paper, 18 : 3-4.
- Harvey, J., Levesque, M., Donnelly, P. (2007) *Sport Volunteerism and Social Capital*. *Sociology of Sport Journal*, 24(2) : 206-223.
- 神原理 (2011) 「ソーシャル・キャピタルの質的研究法」, 社会関係資本研究論集 2, 81-100.
- 川島大輔, 小山達也, 川野健治, 伊藤弘人 (2009) 「希死念慮者へのメッセージにみる、自殺予防に対する医師の説明モデル－テキストマイニングによる分析」, パーソナリティ研究 17(2), 121-132.
- 京俊介 (2012) 「保護者と施設職員の『知的障害者の性』に対する意識－テキストマイニングを用いた探索的分析－」, 島根大学社会福祉論集 4, 1-16.
- 林俊克 (2002) 『Excel で学ぶテキストマイニング入門』, オーム社
- 宮崎隆志 (2008) 「批判的ソーシャル・キャピタルの提起：協同性の発展との関わりで」, 社会教育研究 26, 1-9.
- 文部科学省 (2011) スポーツ基本法.
- 文部科学省 (2012) 平成 24 年度総合型地域スポーツクラブに関する実態調査結果概要.
- 文部科学省 (2012) スポーツ基本計画.
- 長積仁, 榎本悟, 曾根幹子 (2009) 「地域スポーツクラブがコミュニティにもたらす影響－プログラムへの参加とソーシャル・キャピタルとの関係性の検討－」, 生涯スポーツ学研究, 6(2) : 1-11.
- 内閣府国民生活局市民活動促進加課 (2003) 「ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」.
- Okayasu, I., Kawahara, Y., Nogawa, H. (2010) : The relationship between community sport clubs and social capital in Japan : A comparative study between the comprehensive community sport clubs and the traditional community sport clubs. *International Review for the Sociology of Sport*, 45(2) : 163-186.
- Putnam, D. R. (1993), *Making Democracy Work: Civic Traditions in Modern Italy*, 河田潤一訳 (2001) 『哲学する民主主義 伝統と改革の市民的構造』, NTT 出版
- 坂本治也 (2007) ソーシャル・キャピタルは民主主義を機能させるのか?－日本の地方政府と市民社会の計量分析－. 政策科学・国際関係論集, 8 :

1-52.

Salamon, L, M. (1997) *Holding the Center : America's Nonprofit Sector at a Crossroad*, Nathan Cummings Foundation.

塚佳織, 山本信次 (2010) 「祭礼行事のソーシャル・キャピタルへの影響—岩手県陸前高田市気仙町けんか七夕を事例に—」, 農村計画学会 28 巻論文特集号, 231-236.

山口泰雄 (2006) 『地域を変えた総合型地域スポーツクラブ』, 大修館書店.

この研究は笹川スポーツ研究助成を受けて実施したものです。

